築地は日本の近代音楽の発展を担った青年を育んだ場所だった

築地居留地研究会定例会で中島氏講演

NPO法人築地居留地研究会主催による定例報告会が3月23日、東京・中央区築地の聖路加臨床学術センターで開催。築地居留地研究会理事の中島耕二氏（元明治学院大学客員教授）が「築地居留地と近代音楽―讃美歌と青年達の出会い―」と題して講演した。

◇◆◇

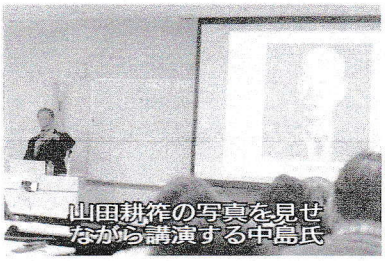
中島氏は「日本の近代音楽の流入は、1853年7月に黒船が浦賀に来港した時と言われている」と話す。「ペリー提督はプロテスタント信徒（聖公会会員）。ちょうど主日に当たる7月10日の日曜日、サスケハナ号で安息日の礼拝が執り行われ、艦上で軍楽隊が奏でる讃美歌「Old Hundredth（現頌栄539番あめつちこぞりて）」の曲に合わせた。その後開国し居留地ができると、駐留する各国の軍楽隊が盛んにパレードや演奏会を開き、直間接に日本人に洋楽の旋律を聴かせていた」

「築地居留地では明治2（1869）年以降、カロザース宣教師夫妻の英語塾で、少年、少女が讃美歌の指導を受けていた」と話す。「後に音楽取調掛（東京音楽学校）の校長になる伊澤修二もここで学んでいる。実は日本の代表的な近代音楽家たちが、築地居留地と深い関係を持っていた」

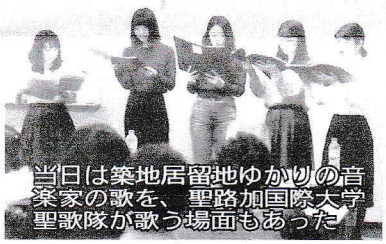
中島耕二氏

その人物として西村正太郎、納所弁次郎、小山作之助、内田粂太郎、北村季晴、大塚淳、山田耕筰らの名を挙げる。

「明治13年、横浜のバラ学校（ヘボン塾の後身）が築地居留地7番に新校舎を建てて移転し、築地大学校となった。その時、一緒に築地にやってきた生徒の一人が西村だ。彼はヘボン塾で女性宣教師ミス・マーシュからオルガンの手ほどきを受け、短期間で『聖歌集』をマスター。横浜第一長老教会（現・横浜指路教会）のオルガニストを頼まれるまでになった。築地に来ると、生徒仲間と当時居留地内にあった新栄教会に通い始め、そこでもオルガニストを依頼された。やがて彼のもとに音楽に関心を抱く後輩たちが集まり、新栄教会を教室に、彼から譜面の読み方やオルガンや洋楽の基礎を学んだ。その音楽仲間に、納所、小山、内田がいた」


山田耕筰の写真を見せながら講演する中島氏

「納所は17歳で築地大学校に入学。朝夕の礼拝で讃美歌を歌い、日曜日には新栄教会の礼拝に出席して讃美歌を歌いと、讃美歌漬けの毎日だった。卒業後、音楽取調掛に進学。優秀な成績を修めた。彼は学習院教授を長く務めたが、その間『言文一致唱歌』運動を広め、特に学校唱歌に力を注いだ。代表作に『うさぎとかめ』がある」


当日は築地居留地ゆかりの音楽家の歌を、聖路加国際大学聖歌隊が歌う場面もあった

「小山も築地大学校を出ると音楽取調掛に進学。卒業後は教授として長く母校に務め、退官後も音楽教育に力を注ぎ、後進を指導。中でも滝廉太郎を育て、ドイツ留学の世話をしたことはよく知られている。代表作『夏は来ぬ』は小学校の音楽教科書にも採用された」

「内田は17歳の時、群馬県の前橋から横浜に出てバラ学校に入学し、翌年、学校の築地居留地移転と共に上京。すぐに新栄教会に通い始め、やがて受洗し教会員となった。彼は納所、小山と同様西洋音楽に目覚め、音楽取調掛に進学。卒業後は群馬県師範学校に奉職し、唱歌の普及や作曲に努めた。内田が作曲した小学唱歌『秋景』は当時たいへん人気があり、よく歌われた。やがて母校に戻り、音楽取調掛の助教授、教授として音楽教授法を講義した。その頃の教え子に三浦環や山田耕筰がいた」

「北村は西洋音楽に興味を抱き、自宅のある銀座から築地居留地の東京一致神学校を訪ね、フルベッキからオルガンを習うようになった。築地大学校の後身の東京一致英和学校に入学、その後同校が築地から明治学院普通学部となって芝白金に移ったころ、ヘボンから『君は音楽の才能があるから、音楽学校に行ったほうが良い』と勧められ、東京音楽学校へ転校。後に長野県民の歌『信濃の国』、日本初の創作オペラ『露営の夢』などの作曲者として知られることになる」

「大塚は明治学院卒業後、東京音楽学校に進学。卒業後、慶應義塾のワグネル・ソサイエティーの常任指揮者、東京音楽学校助教授、教授、日本放送交響楽団（現N響）などの指揮者を務めた。大塚の従兄弟の山田は、父が女性宣教師ヤングマンが経営する聖書学館の事務を手伝っていた関係で、一家はヤングマンの住む築地居留地6番B棟に住んでいた。自宅では両親や姉が毎日英語の讃美歌を歌い、主日には新栄教会の礼拝で讃美歌を聴き、居留地の洋館から流れるピアノの調べなど、築地居留地は山田の旋律の原点となった。山田は大塚のアドバイスを受け、東京音楽学校を受験し合格。その後の活躍は名曲『赤とんぼ』を作曲するなど、誰もが知るところだ」

講演の進行に合わせ、「うさぎとかめ」「夏は来ぬ」「この道」など築地居留地ゆかりの音楽家の歌を聖路加国際大学聖歌隊の美しいハーモニーで紹介。中島氏は「旧築地居留地が、日本の近代音楽の発展を担った青年たちを育んだ重要な場所であったことを知っていただければ幸いだ」と結び、最後に参加者80人余り全員で「赤とんぼ」を歌って講演を締めくくった。

情報クリップ

【東京】基地を「本土」にき取ることを考えませんか？（沖縄の基地を引き取る・首都圏ネットワーク主催）4月6日午後2時～。新宿西早稲田の早稲田奉仕園で沖縄の基地問題を「本土」生活する者の問題として考え行う集まり。白鳥龍也（京新聞論説委員）、谷津憲（朝日新聞社会部デスク、論説委員）、高橋哲哉（東大学大学院教授）。資料代円。問080-7010-2170（事局）。

【大阪】第39回大阪府民イスター（大阪宣教祈祷会催）4月14日午後4時～。阪市中央区の大阪女学院ールチャペルで。音楽ゲスは吉村美穂、聲美は関西エアンジェリカルハーモニー

わないよう、牧師たちネットワークが動き出ています」と現地キリト教会の状況も知らせ

ハンガーゼロは、こからの緊急支援活動を極めつつ、アフリカ・ンゴ民主共和国駐在のエロームスタッフを現に送ることも検討しつつ、被災者支援を進めいく。ハンガーゼロでは